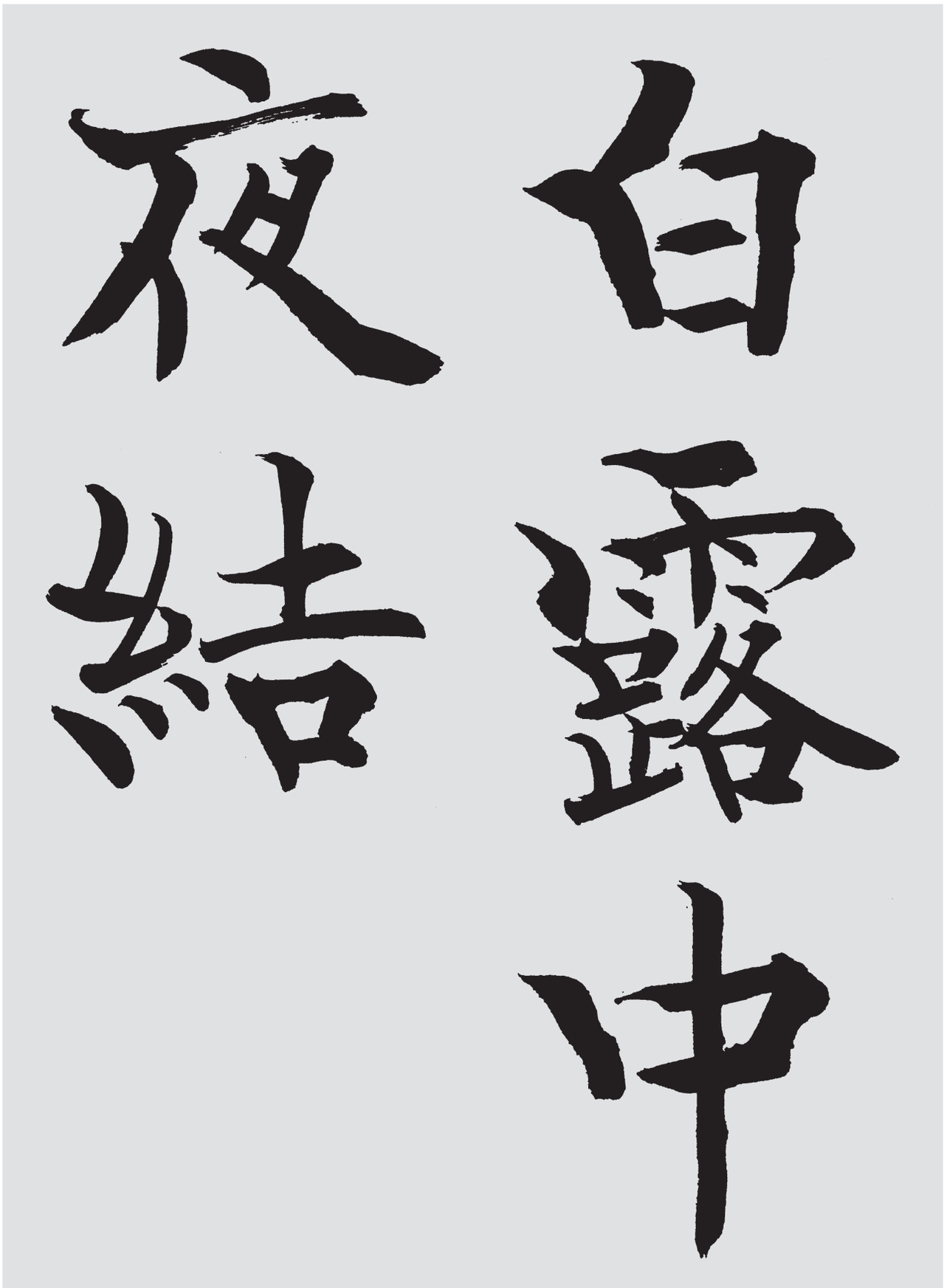
参　考　手　本

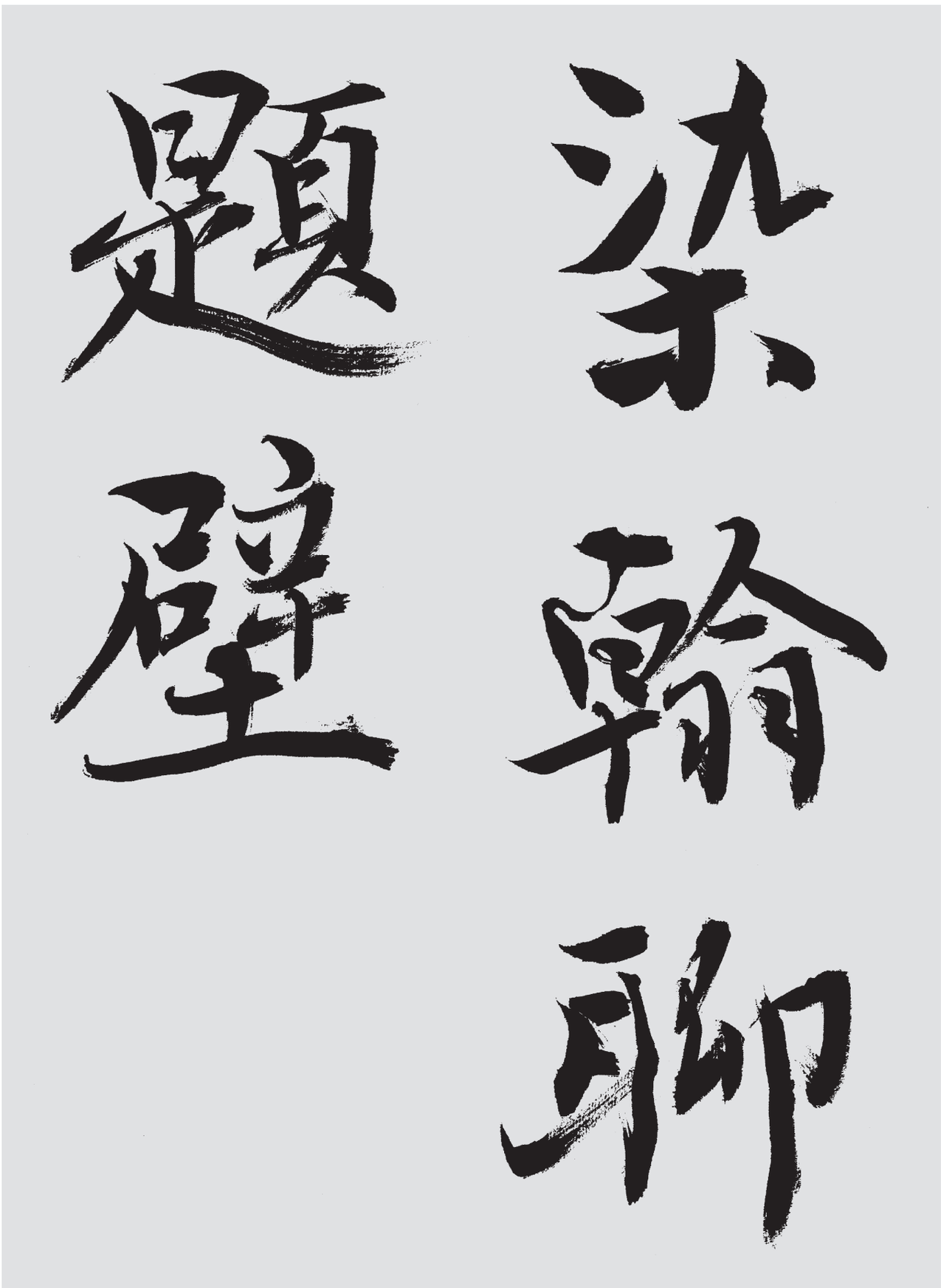
白露中夜に結ぶ



成瀬映山先生

※これは規定課題ではありません。

参　考　手　本



翰を染め聊か壁に題す

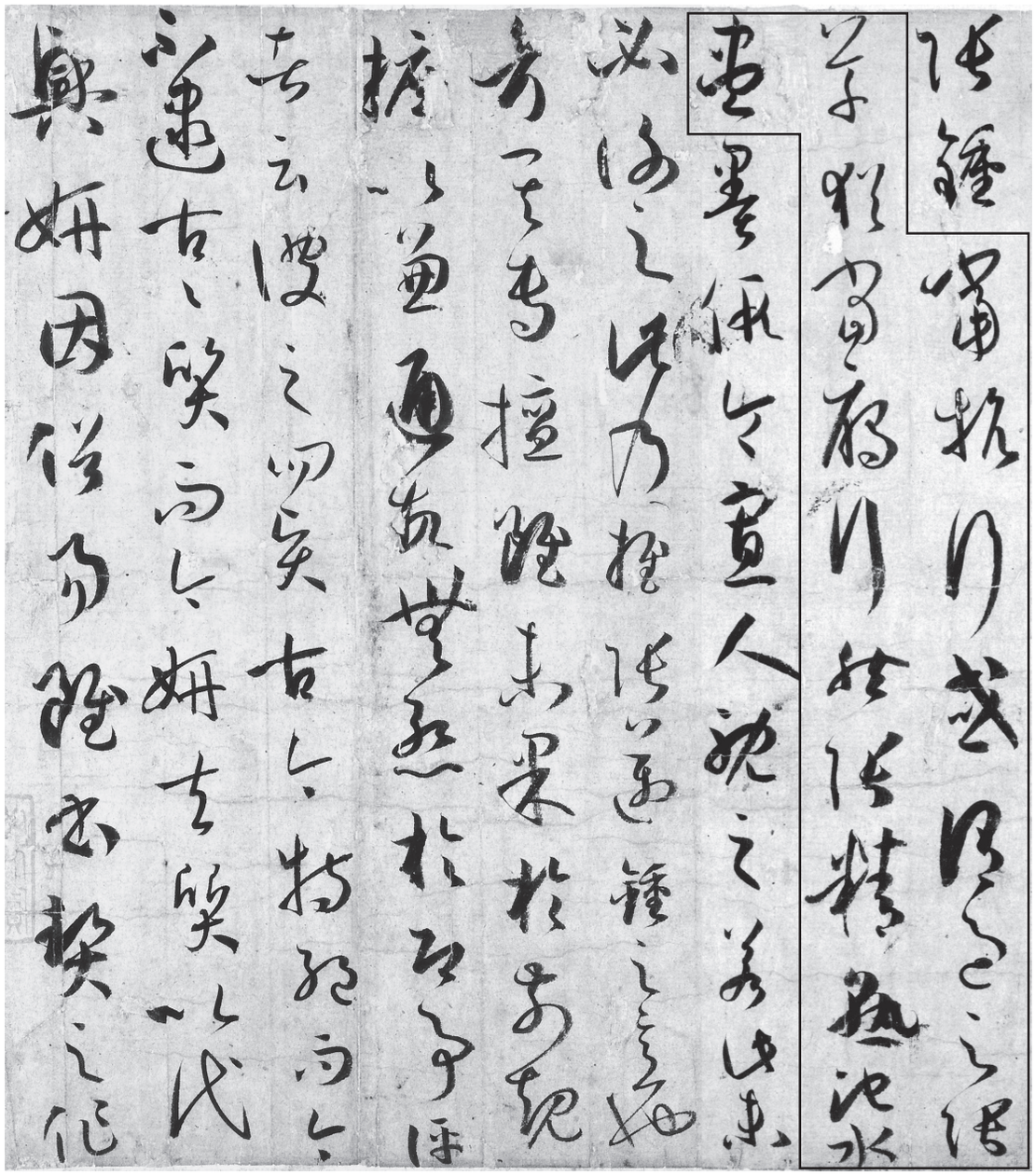
高　木　聖　雨　先　生

※これは規定課題ではありません。

条幅規定

A部（準五段以上）

『書譜』⑤　孫過庭



張。鍾當抗行。或謂過之。張草猶當鴈行。然張精熟。池水盡墨。假令寡人耽之若此。未必謝之。此乃推張邁鍾之意也。考其專擅。雖未果於前規。摭以兼通。故無慙於卽事。評者云。彼之四賢。古今特絕。而今不逮古。古質而今妍。夫質以代興。妍因俗易。雖書契之作。

鍾には当に抗行すべく、或いは謂えらく、之に過ぎんと。張の草には猶当に鴈行すべきも、然れども張は精熟して、池水尽く墨となる。仮令寡人之に耽ること此くの如くんば、未だ必ずしも之に謝じずと。此れ乃ち張を推して鍾に邁ぐとするの意なり。其の專擅を考うるに、未だ前規より果ならずと雖も、摭りて以て兼ね通ず。故に即事に慚ずる無し。評者云く、彼の四賢は、古今の特絶にして、而して今の古に逮ばざるは、古は質にして今は妍なればなりと。夫れ質は代を以て興り、妍は俗に因りて易わる。書契の作るや、

【今月の課題】

「當抗行或謂過之張草猶
當鴈行然張精熟池水盡」
（20字）

〔この課題を同月の条幅随意には出品出来ません〕

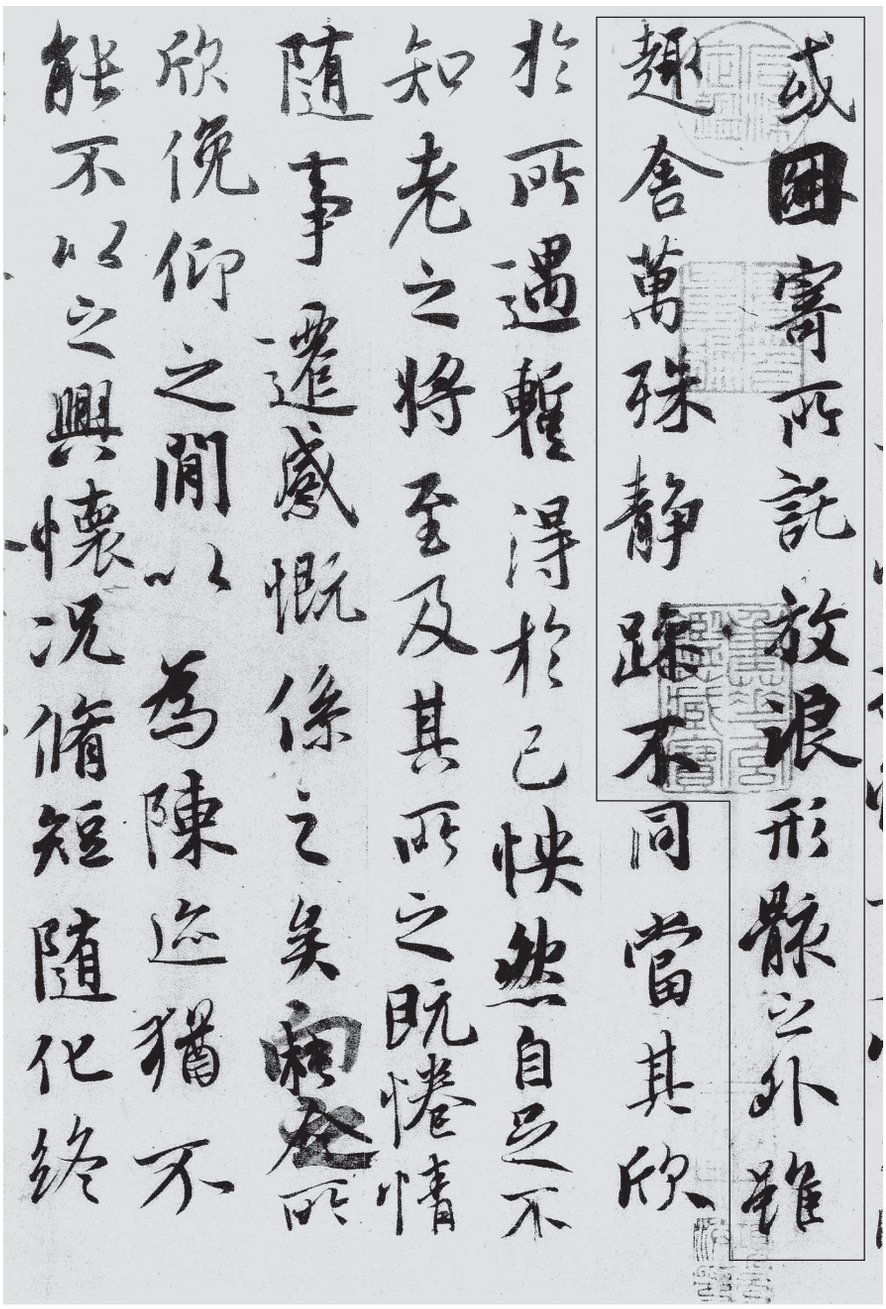
条幅のバーコード出品券にはA・Bでは無く段・級を記入してください

（10月10日締切）

条幅規定

B部（四段以下）

『蘭亭叙』（らんていじょ）　王羲之（おうぎし）（東晋）



或因寄所託。放浪形骸之外。雖趣舎萬殊。靜躁不同。當其欣於所遇。暫得於己。快然自足。不知老之將至。及其所之既惓。情隨事遷。感慨係之矣。向之所欣。俛仰之間。以爲陳迹。猶不能不以之興懷。況脩短隨化。終

或いは寄せて託する所に因って、形骸の外に放浪す。趣舎万殊にして、静躁同じからずと雖も、其の遇う所に欣び、暫く己れに得るに当たっては、快然として自ら足り、老の将に至らんとするを知らず。其の之く所既に惓み、情は事に随いて遷るに及んで、感慨之に係われり。向の欣ぶ所は、俛仰の間、以に陳迹と為るも、猶お之を以て懐を興さざる能わず。況んや脩短は化に随い、終に

【今月の課題】

「或因寄所託放浪形骸之外雖趣舎萬殊靜躁不」（18字）

〔この課題を同月の条幅随意には出品出来ません〕

条幅のバーコード出品券にはA・Bでは無く段・級を記入してください

（10月10日締切）

半紙規定 (一)

曹全碑（漢・作者不詳）

※清書作品には支部名・段級・雅号を必ず筆で記入して下さい。

・・・・・・枝分葉布し所在

然則神物之

半紙規定 (二)

九成宮醴泉銘（唐・欧陽詢）

※清書の提出は〔初段以上〕楷書か隷書
〔一級以下〕楷書

・・・・・・然らば則ち神物の

〔この課題を同月の半紙随意には出品出来ません〕

（10 月 10 日締切）

条幅参考手本

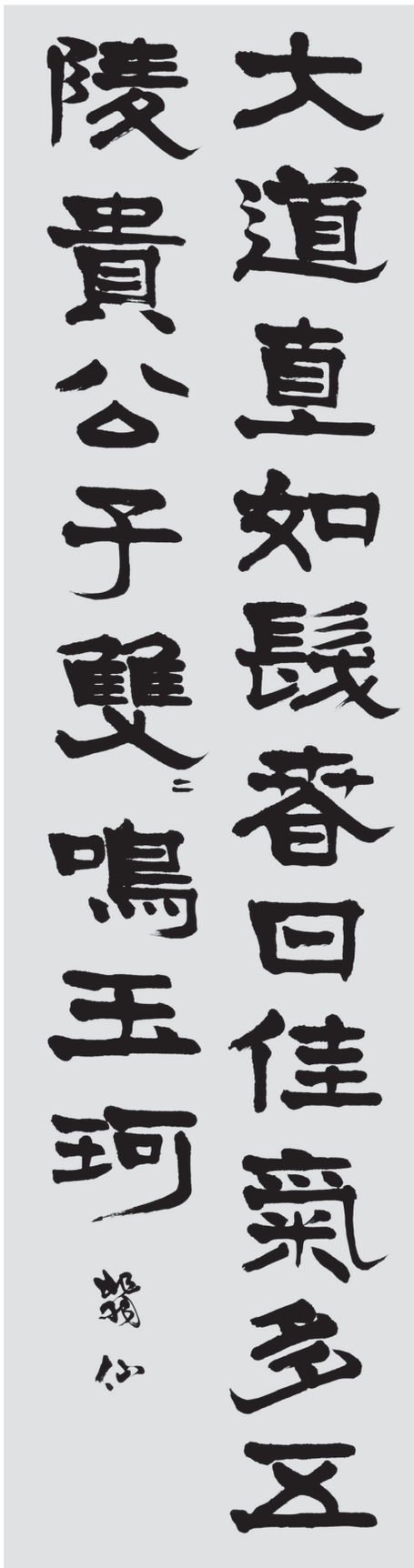
漢國山河在　秦陵草樹深　暮雲千里色　無處不傷心
漢國山河在り　秦陵草樹深し　暮雲千里の色　處として心を傷ましめざるは無し

石田輝仙先生

門開日影來　一片蒼苔色　花氣引游人　山風吹未息
門を開けば日影来り　一片蒼苔の色　花気游人を引き　山風吹いて未だ息まず

熊倉翠李先生

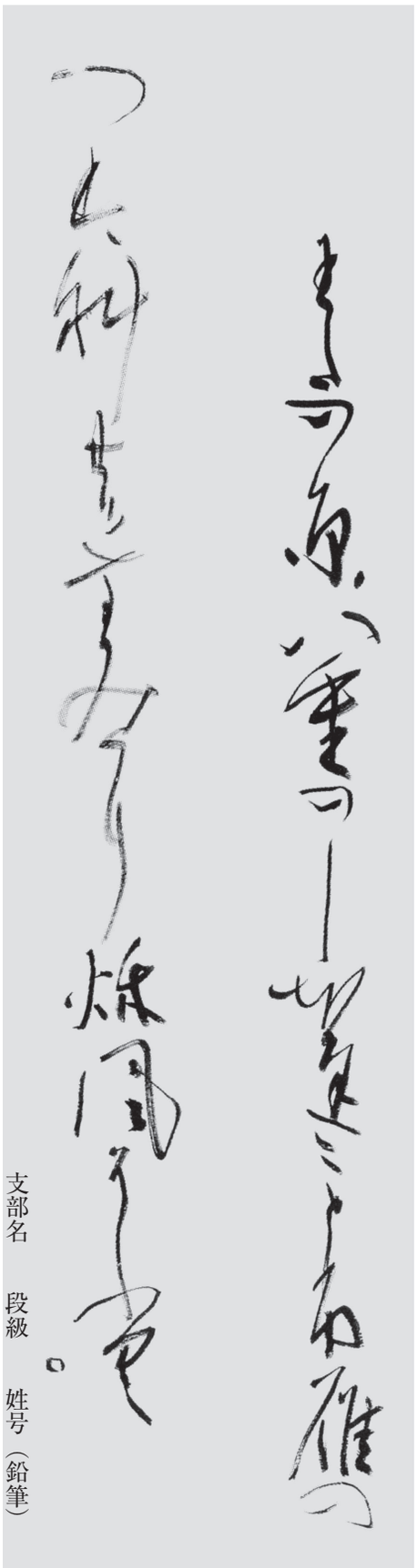
条幅参考手本



大道直きこと髪の如く　春日佳気多し　五陵の貴公子　双双玉珂を鳴らす

織田翡仙先生

条幅かな



和田の原八重のしほぢに飛ぶ雁のつばさのなみに秋風ぞ吹く（源実朝）

王多本遅二と布盤斜農奈耳曽ふ具

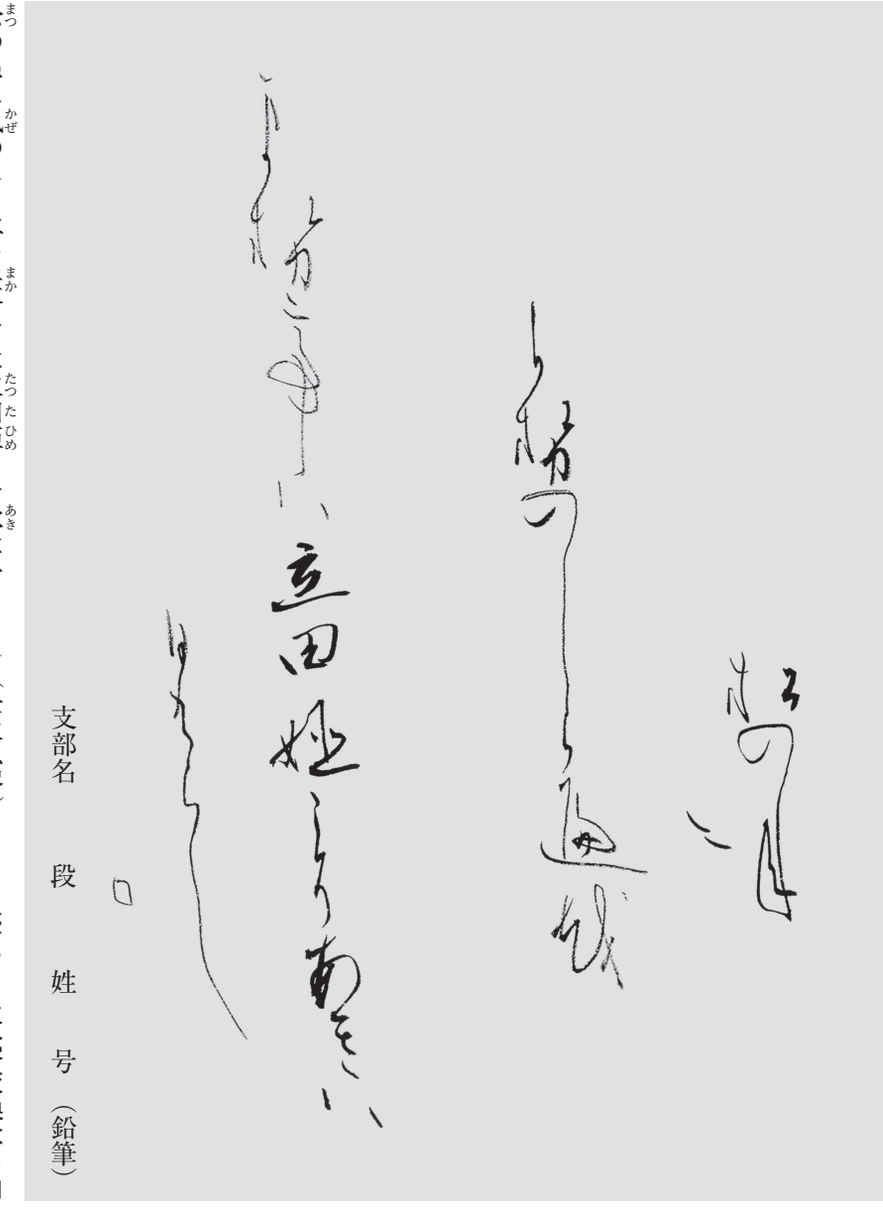
浮乗清郷先生

支部名　段級　姓号（鉛筆）

※かな部は支部名・段級・姓号を鉛筆で左下部に添え書きして下さい。

（10 月 10 日締切）

半紙かな（初段以上）



浮乗清郷先生

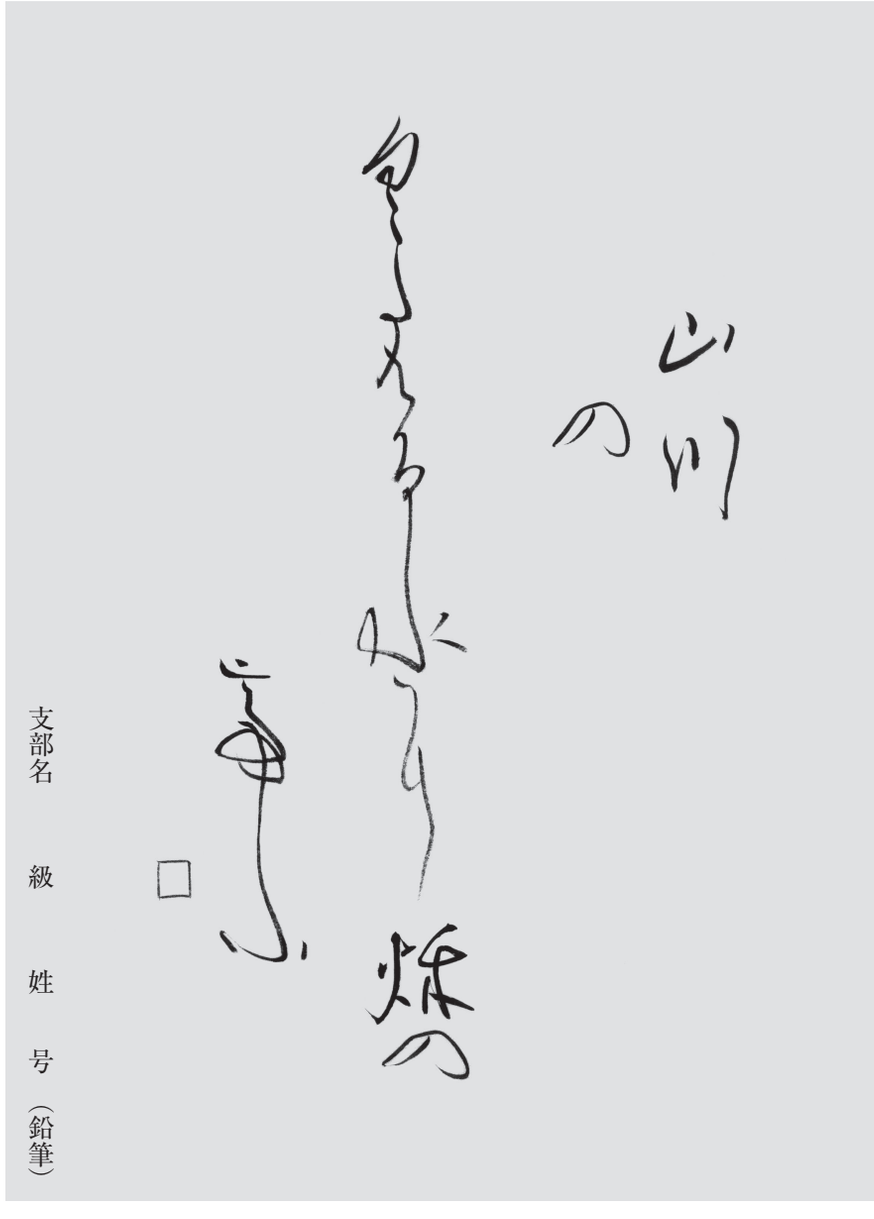
松のねに風のしらべを任せては立田姫こそ秋はひくらし（壬生忠岑）
年二可勢　遍越万可勢帝八　曽あき八日九

※ちらし文字変換は自由

支部名　段　姓　号（鉛筆）

※支部名・段・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。

半紙かな（１級～８級）



古田葉子先生

山川のくだくる水に秋の蝶（高浜虚子）
具多九耳　帝ふ

※ちらし文字変換は自由

支部名　級　姓　号（鉛筆）

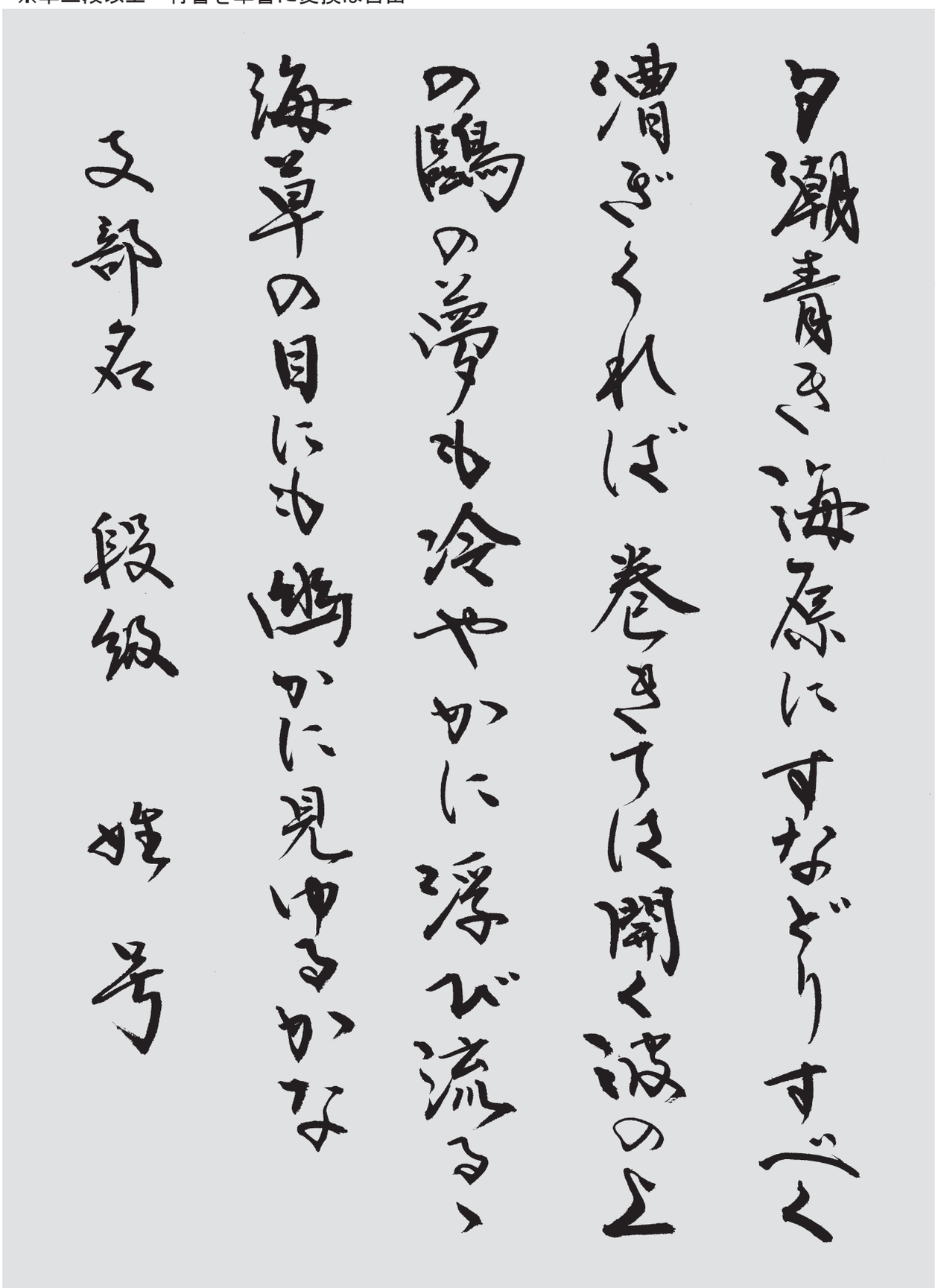
※支部名・級・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。

（10 月 10 日締切）

実　用　文

※準三段以上…行書を草書に変換は自由

〈書風任意〉



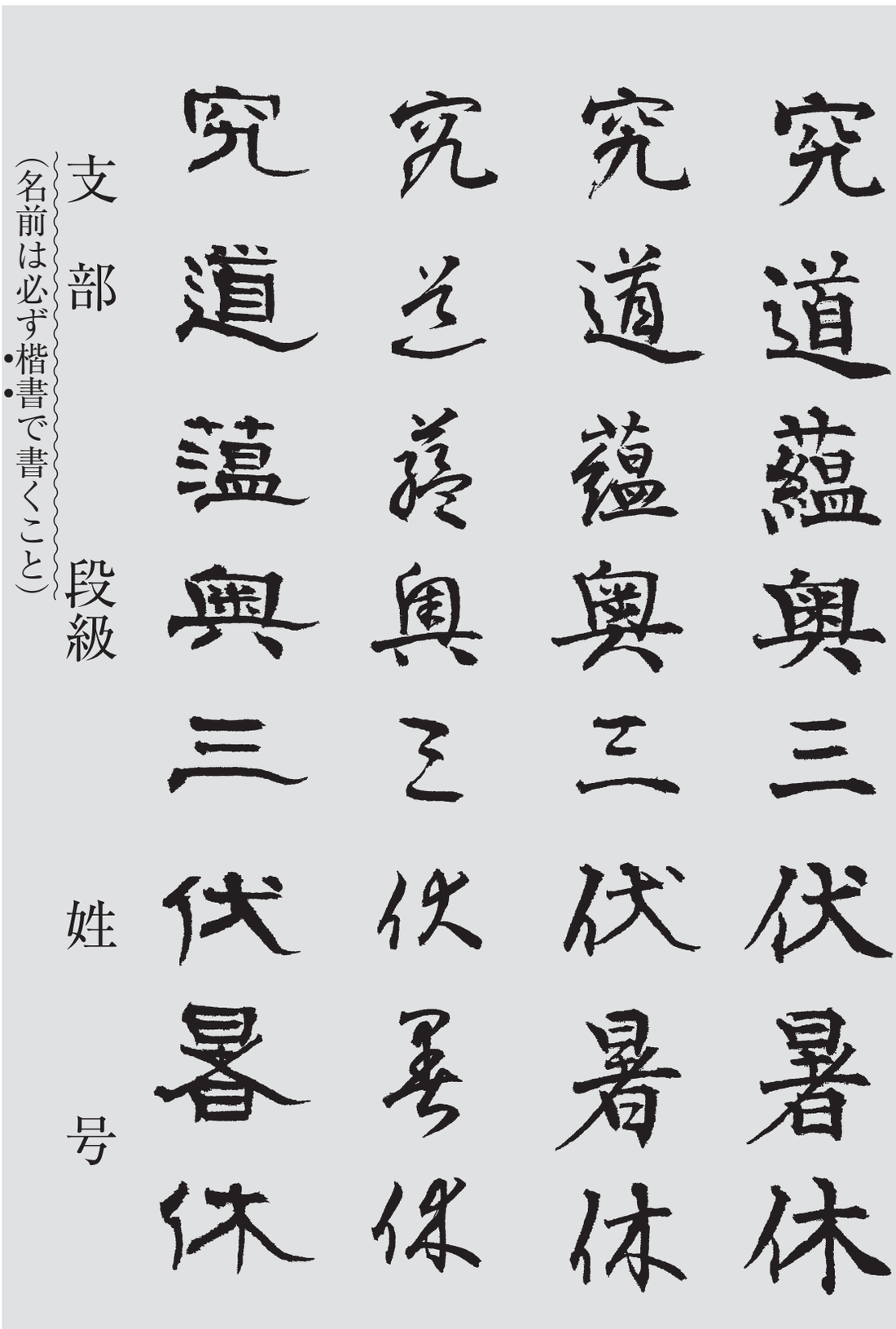
島崎藤村詩「新潮」より

鈴木翡恵先生

（10月10日締切）

細　　字

高須翠雲書「五體昭和千字文」より　P39



※一級～八級は草書まで。　初段以上は隷書まで。

※名前は楷書以外では違反になります。

17cm（よこ）×24cm（たて）

究道（きゅうどう）　学問、芸術の道を究める。

蘊奥（うんおう）　学問、芸術の奥底。

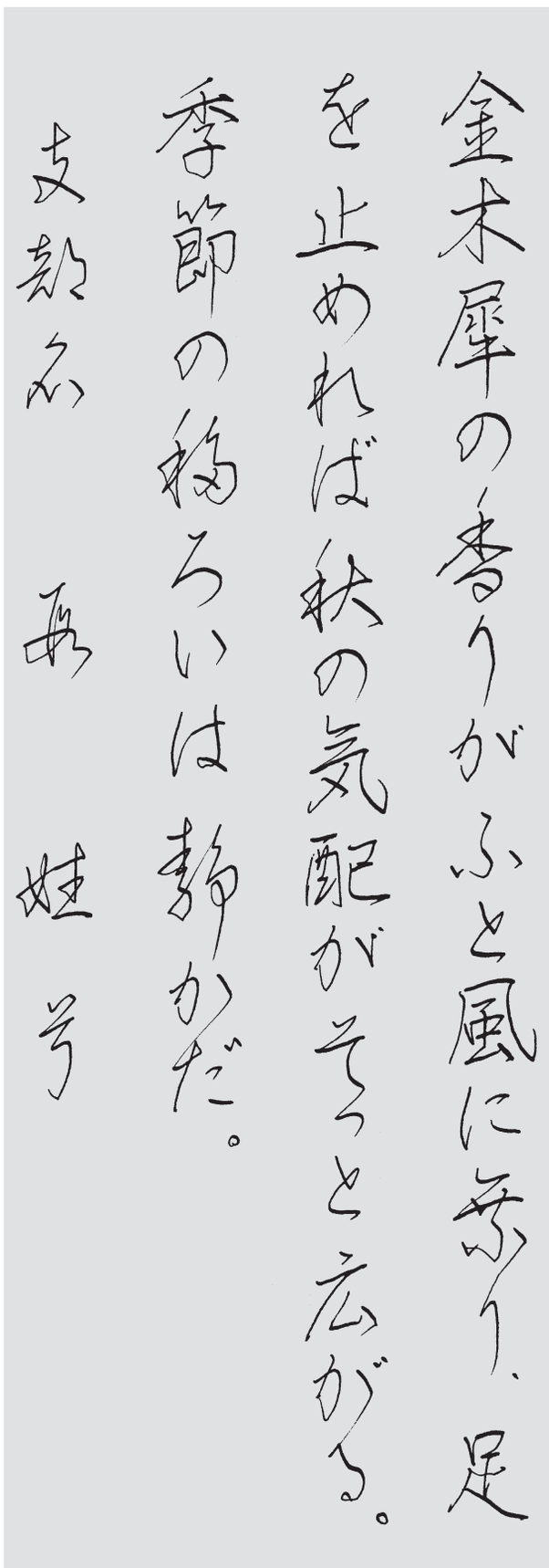
三伏（さんぷく）　暑さがはげしい。

主幹　菅野翠濤

（10月10日締切）

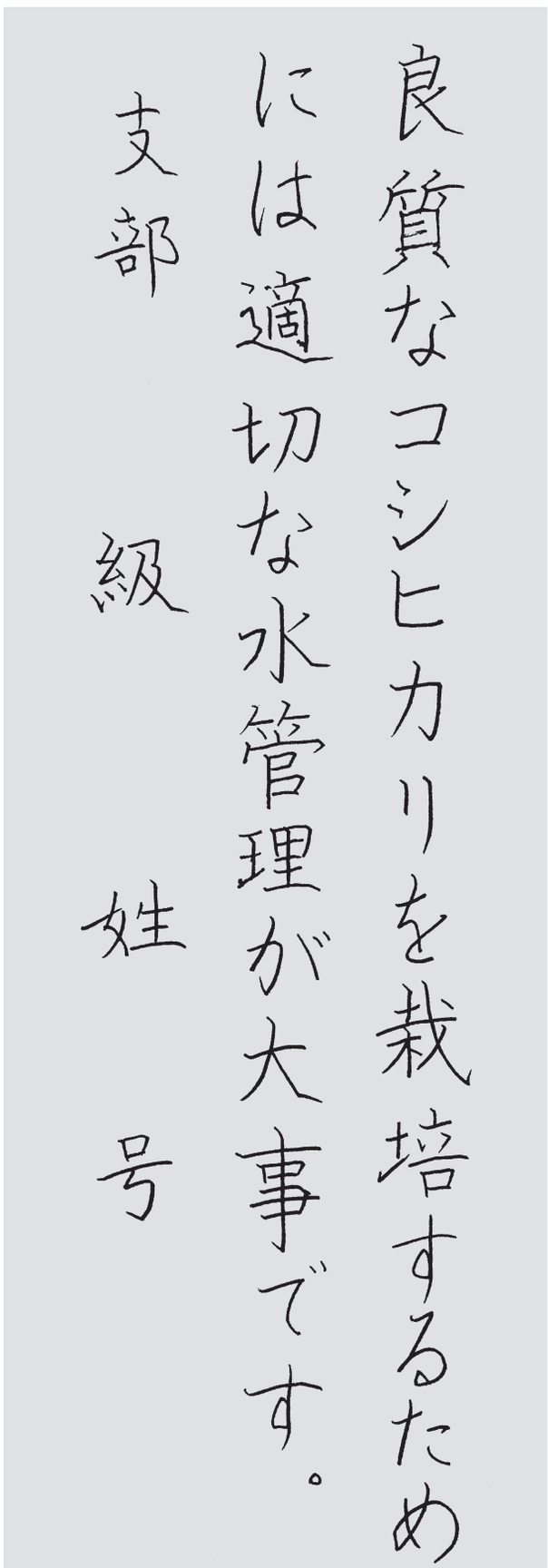
硬筆（初段以上）

3行、行草書



硬筆（1級以下）

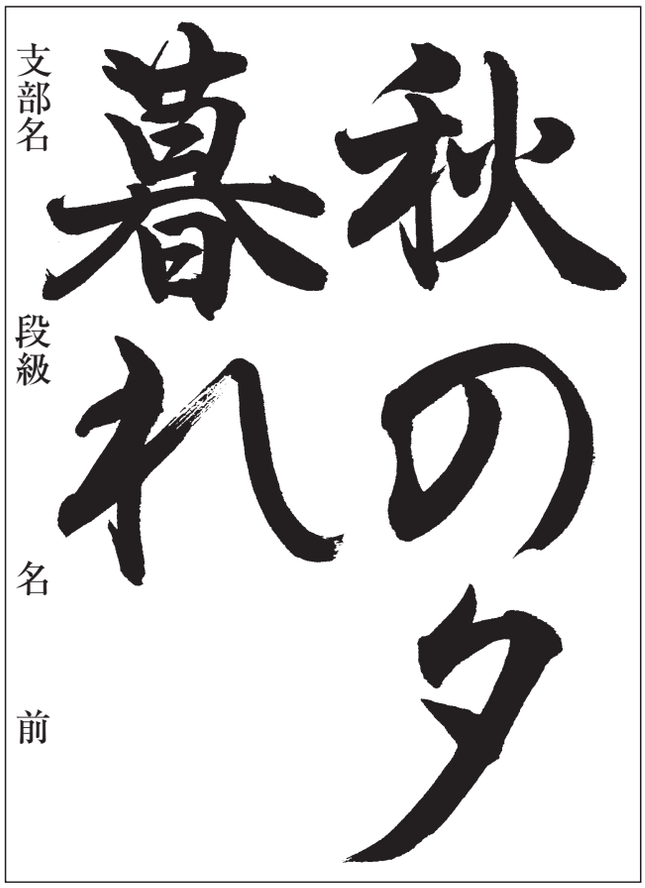
2行、楷書



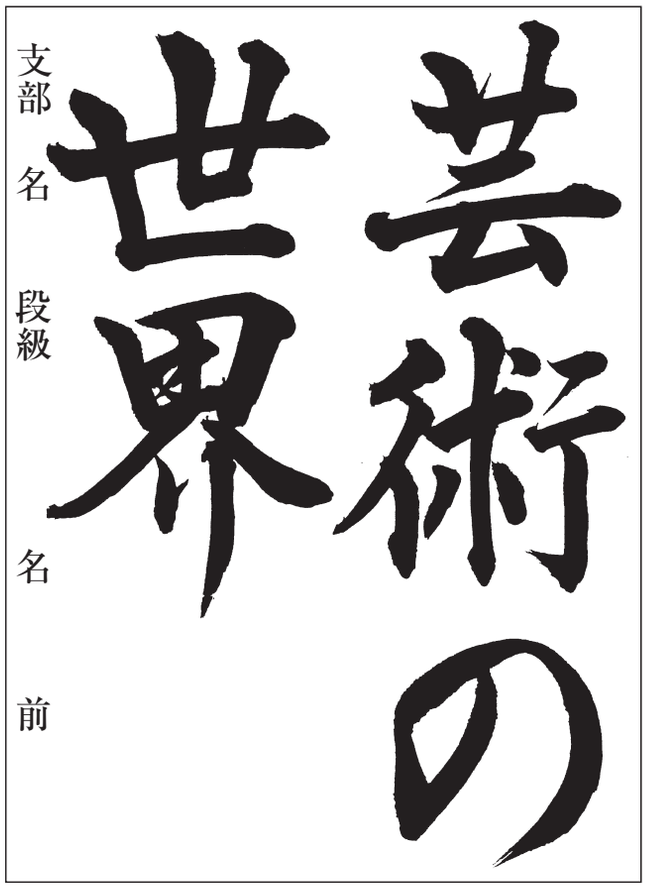
※本院定型用紙・たて半分に書く

（10月10日締切）

中２用

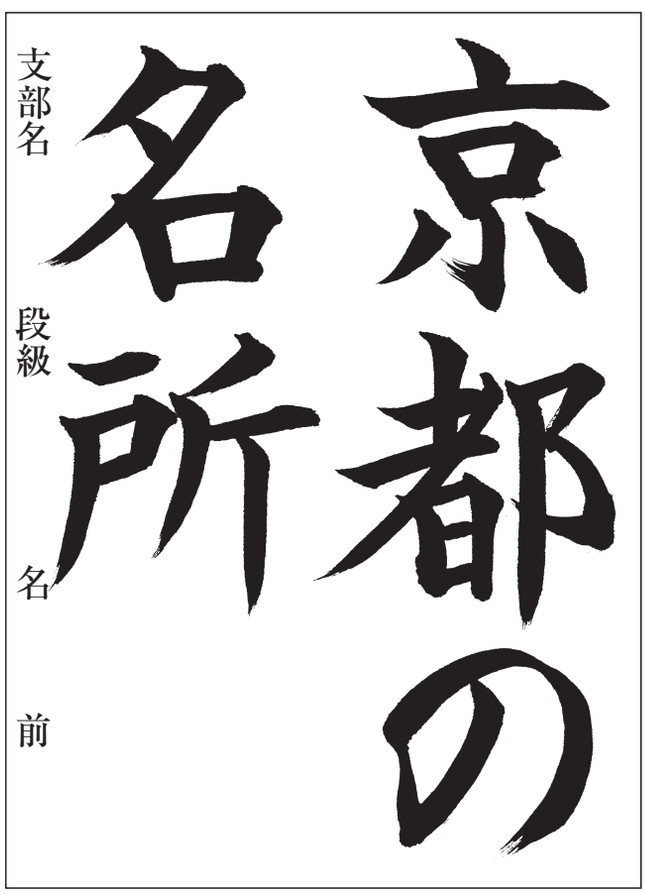


中３用



小６用

中１用



10 月 10 日締切課題並びに後期昇段級試験課題（10 月 15 日締切）

小４用

小５用

小２用

小３用

10 月 10 日締切課題並びに後期昇段級試験課題（10 月 15 日締切）

中１

議長には、議事の進行をはかる権限がある。

中１～中３　青柳江雲先生

中２

公衆道徳を守れば、住みよい社会になる。

中３

世界の多数の国が、国連に加盟している。

小１・幼年用

小１・幼年

ほしがよぞらに、ひかっています。

小１～小３　齊藤翡流先生

小２

よ空に、月があかるくかがやいています。

小３

大きな石をひっくりかえしたら、虫が出た。

小４

秋分の日をさかいに、夜がだんだん長くなる。

小４～小６　鈴木蕙翠先生

小５

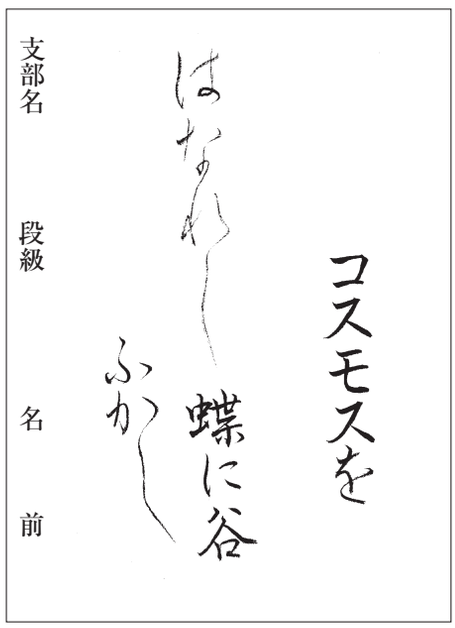
秋分の日は、昼と夜の長さが等しくなる。

小６

海面に月がうつり、美しい金色の光が流れる。

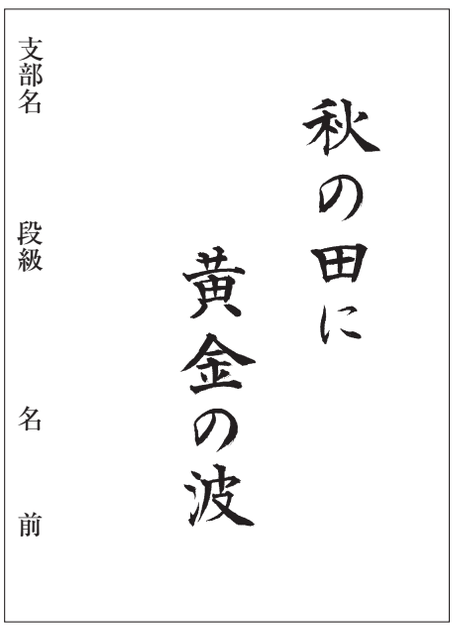
10月10日締切課題並びに後期昇段級試験課題（10月15日締切）

中学部かな課題



船久保棠苑先生

小学部小筆課題



主幹菅野翠濤

10月10日締切課題並びに後期昇段級試験課題（10月15日締切）

11月10日締切課題予告

A部条幅規定　墨假令寡人恥之若此未必謝之此乃推張邁鍾之

B部条幅規定　同當其欣於所遇蹔得於己快然自足不知老

かな条幅規定　秋の日に光り輝く薄の穂これの高屋にのぼりて見れば（良寛）

半紙規定（初段以上）　在為雄君高

半紙規定（一級以下）　來寔扶明聖

半紙かな（初段以上）　夜もすがら木の葉かたよる音聞けばしのびに風の通ふなりけり（熊谷直好）

半紙かな（一級以下）　名月のわが家を見むと野路へ出づ（林翔）

実用文　書を学んでいると行書は解りやすいが壁の一つに草書・変体がなが出てきます。これら書体も楽しく学びたいものです。

一般硬筆初段以上　畑に並ぶ野菜たちが、光をまとって、並んでいた。実りには時間と手間の記憶が宿っている。

一般硬筆一級以下　優れた詩の言葉は、読む者の心に入って深い感動を生む。

11月10日締切学生部課題予告

中三毛筆　月夜銀の星

中二毛筆　旅行の安全

中一毛筆　空一面の星

小六毛筆　虫鳴く夜

小五毛筆　文化の日

小四毛筆　きく人形

小三毛筆　すな山

小二毛筆　タオル

小一毛筆　さ　ら

中学部かな　雨の月どこともなしのうすあかり

小学部小筆　庭にさく白ぎくの花

中三硬筆　桜前線は北上し、紅葉前線は南下して行く。

中二硬筆　真っ赤な夕焼け空に、鳥が一羽飛んでいた。

中一硬筆　高原の清らかな空気を胸いっぱい吸った。

小六硬筆　夕焼けに、空も海も真っ赤にそまって美しい。

小五硬筆　朝の湖は太陽に照らされてかがやいている。

小四硬筆　山は赤や黄の葉で、美しくいろどられた。

小三硬筆　草むらで、虫のなき声が聞こえてくる。

小二硬筆　あきの空は、くもが一つもなくすんでいる。

小一硬筆　しばふにねころんで、そらをみていた。